



新型コロナウイルス第6次の蔓延の中、不安な中でのお仕事、日常生活を送られていることと推察します。

さて、東北ハイク研究会セミナー「コロナ後の東北農業・農村・食資源を活用した交流・観光の新たな展開を展望する」を令和4年1月26日（水）に全国各地から53名の参加者を得て開催することができました。

ニュースレター第59号では、このセミナーの概要についてお知らせします。

セミナーの目的

新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、これまで順調に伸びてきたわが国の農産物輸出は大きく減少するとともに、観光事業の発展を支えていたインバウンドの訪日制限措置により、観光産業、高級食材を生産する農業への打撃は計り知れないものがあります。しかしながら、海外、国内を問わずワクチン接種者の着実な増加が続き、出口が見えない新型コロナ禍にもかすかな光明が見えています。

東北地域においては、東日本大震災からの復興が進む中で、新型コロナウイルスが蔓延し、東北地域の観光・農業・食産業は再び大きなダメージを受けましたが、粘り強い東北人の気質と素晴らしい風土、環境、そして食と農を支えるビジネスの基盤は健在です。

今回のセミナーは、コロナ後を見据えた東北地域の観光開発、インバウンドへの対応、さらには東北の優れた農産物や食品、農村社会を戦略的に国内外に発信する方法について、専門家をお招きして意見交換することを目指して実施しました。なお、今回のセミナーは、新型コロナウイルスの収束が見えない中での開催となるため、Online 配信で実施しました。

開催の日時と場所

日 時 令和4年1月26日（水） 13:30～16:15
開催場所 オンライン開催（Zoom(ウェビナー)によるライブ配信）
主 催 農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室
東北地域農林水産・食品ハイク研究会

セミナープログラム

挨拶 東北地域農林水産・食品ハイテク研究会企画委員長／東北大学教授 藤井 智幸

第1 報告 東北における今後の観光開発政策を展望する

国土交通省 東北運輸局 観光部 部長 鈴木 邦夫 氏

第2 報告 東北の食と農を発信する JR 東日本の取り組み

東日本旅客鉄道株式会社 盛岡支社 営業部長 渡邊 佳隆 氏

第3報告 陸前高田から新たな農の形を創造する

ワタミオーガニックランド株式会社 代表取締役 小出 浩平 氏

第4報告 仙台ターミナルビル株式会社 観光農園の取り組み

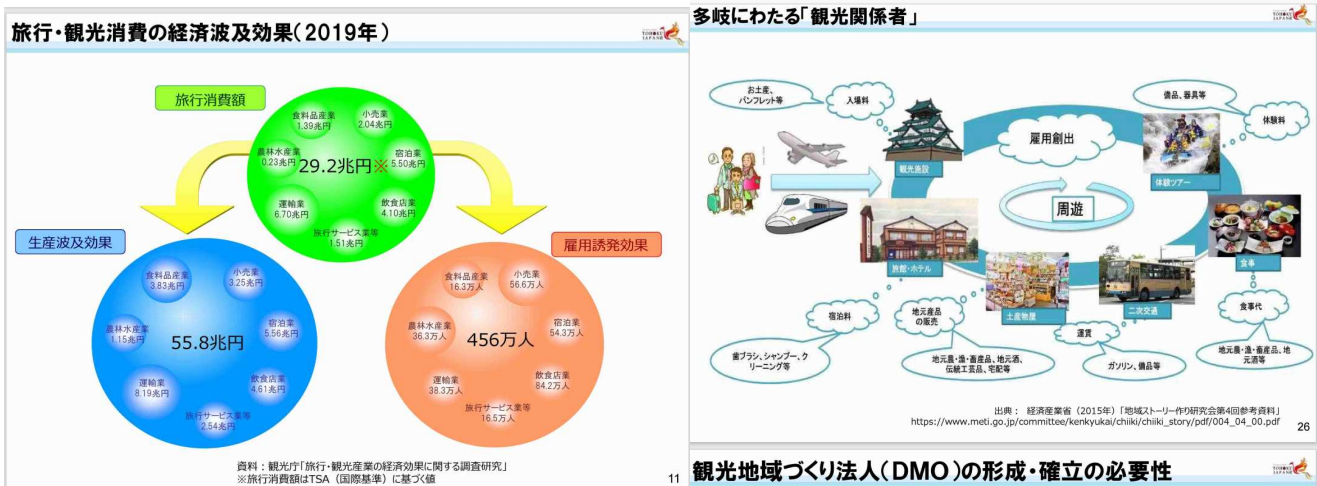
仙台ターミナルビル株式会社 観光農業部 専門監 菊地 秀喜 氏

質疑討論

司会：東北地域農林水産・食品ハイテク研究会 門間 敏幸

講演内容

第 1 報告では、「東北における今後の観光開発政策を展望する」と題して、国土交通省 東北運輸局 観光部 部長の鈴木 邦夫さんから話題提供が行われた。ここでは、現在の東北観光の現状、地域活性化における観光の重要性、新型コロナウイルスの感染拡大による観光トレンドの変化、農業と観光が連携した取り組み事例の紹介が行われた。現在の観光の現状に関しては、豊富な時系列データに基づき、最近の推移と新型コロナウイルスの影響がいかに観光に打撃を与えたかが示された。



また、観光の地域経済への影響は単に旅行消費額にとどまらず、旅行関連商品の生産誘発効果、雇用誘発効果が極めて大きいことや地域経済にとっての観光の重要性が示され、新型コロナウイルス拡大の影響の中で、県内・近隣地域内での観光（マイクロツーリズム）、個人旅行の割合が増加するとともに、ワーケーションの実施希望、アウトドアレジャーへの希望が増加していることが示された。さ

らに、世界的に持続可能な観光（サステナブルツーリズム）への需要が高まり、地域全体の資源を総合的に生かした観光コンテンツを地域の住民・関係機関が一体となって整備・充実を図ることの重要性が示された。

観光地域づくり法人(DMO)の形成・確立の必要性

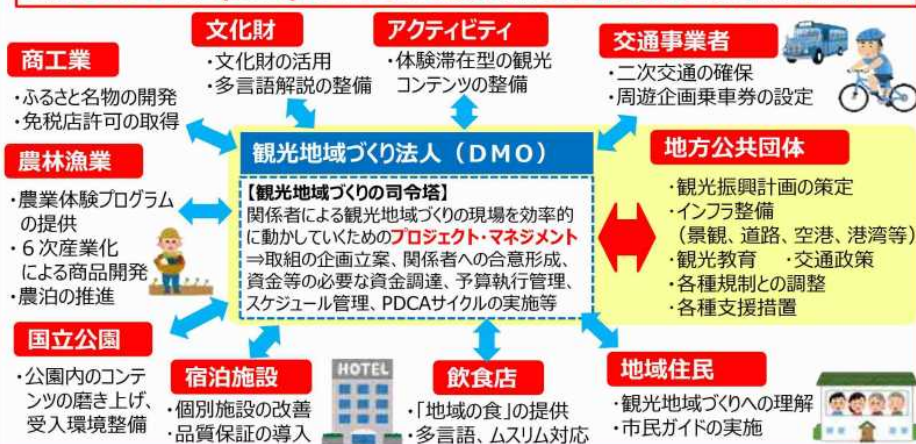
観光地域づくり法人(DMO)

地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人

DMO : **D**estination **M**anagement/**M**arketing **O**rganization

地域の関係者を巻き込んだ体制の構築

観光地域づくり法人(DMO)を中心とし、地域の関係者が主体的に参画した体制を構築



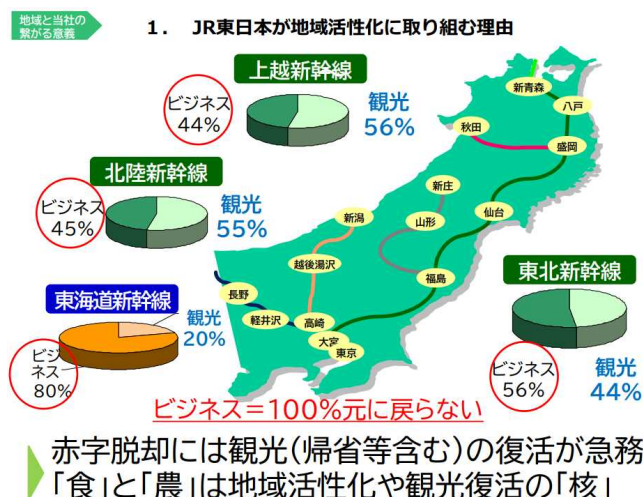
ターゲット等
の戦略策定
観光コン
텐츠の
造成
受入環境
の整備

地方誘客・旅行消費拡大

27

東北における観光地域づくり法人(DMO)

第2報告では、「東北の食と農を発信するJR東日本の取り組み」と題して、東日本旅客鉄道株式会社 盛岡支社 営業部長の渡邊 佳隆さんから話題提供が行われた。ここでは、地域とJR東日本が繋がることの意義、JR東日本の強みを生かした事業展開、食や地域産業に関わる地域連携などの取り組みが紹介された。



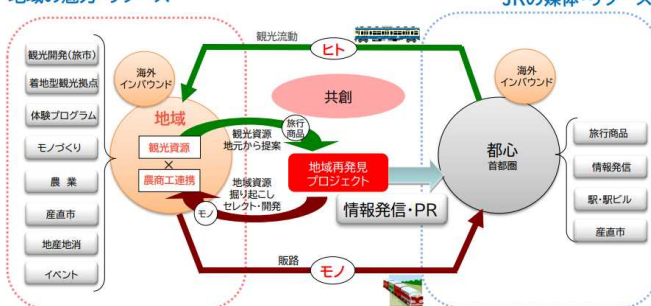
2. 地域再発見プロジェクト

それは日本のたからもの。

地域発見プロジェクト

- ・「鉄道ネットワークの特性」及び「首都圏での販路や広告媒体」を活かし“**ヒト**”と“**モノ**”の交流を図り、地域活性化
- ・2011年の東日本大震災をきっかけに、さらに注力

IRの媒体・リソース

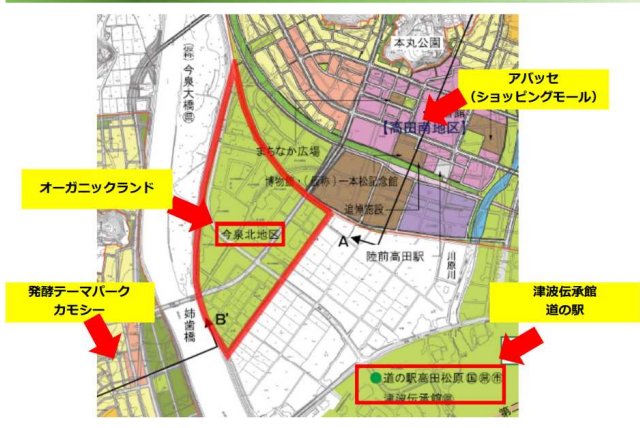


地元のモノを活かした魅力発信

遠野産ホップを使い、2018年度から商品化。各商品の副原料は遠野エリア周辺のものを使用し地元の魅力発信に繋げることとしている。第1弾は「奇跡の米 大槌復興米」、第2弾は宮守町「小麦 ゆきちから」、第3弾は住田町「イチゴ」を使用

遠野周辺エリアで取れる様々な種類の木材を使用した木製
コースター。県外の方やSL銀河乗車のお客さまがメインターゲット
遠野市内の木工事業者が制作

計画地（約23ヘクタール）

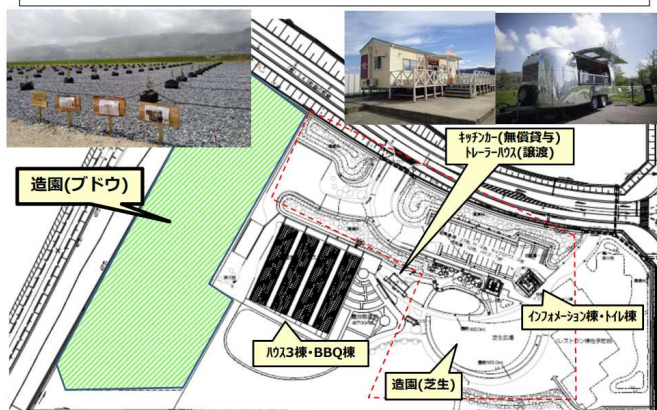


全体完成イメージ（約10年後）



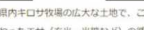
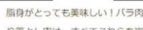
4

・この地で、下記の施設を建設し、農園、バーベキュー、カフェ、体験学習からスタートします



地元食材を活用したBBQ、ハンバーガー提供中



Iwate beef	牛肉	Iwate pork	豚肉	Iwate chicken	鶏肉
県内千石草牧場の広大な土地で、こだわったエサ（玄米・米糠など）の循環型肥育で育った岩手めんごい県産の肩ロース肉。肉のうまみが濃い！ 		脂身がとっても美味い！！バラ肉・切り落とし肉は、すべてこれも岩手県産。 		地元の名産どりは、フランスの希少肉。国産の白肉の掛け合わせ、ひなは卵黄と飼料にこだわって、健やかに育っています。 	

watami 地球上で暮らす全ての生命のつながりをつなぐグループになる

10

第4報告では、「仙台ターミナルビル株式会社 観光農園の取り組み」と題して、仙台ターミナルビル株式会社 観光農業部 専門監の菊地 秀喜さんから話題提供が行われた。ここでは、東日本大震災を受けた仙台沿岸部における「食と農のフロンティアゾーン」の拠点施設を目指して2016年に再整備された「JRフルーツパーク仙台あらはま」の観光果樹園（1年を通し旬の果物の摘み取りができる）の取り組みが紹介された。



＜品目ごとの収穫時期＞

[illegible]

【2021年度】イチゴ(にっここベリー)に加えて、菜花(5種類)の摘み取り、スイートコーンのもぎ取り体験、サツマイモ、落花生の摘み取り体験を開催予定 ※イチゴ以外の作物は6~7回程度のイベント開催予定、野菜を育てる土を育て、将来的なBBOなどのアクティビティへの野菜の提供も行っており視野に入る

【2022年度】
前年スタートのイチゴの他、ブドウ、リンゴ、ナシ、ブルーベリー、イチジク、キウイ、スグリの栽培全8品目の摘み取り開始予定。

12

省力化



- 作業動線が一直線
- 脚立の移動、SSの走行、草刈り機の走行すべてが一直線

樹勢のコントロール



- 1m間隔で植栽して、側枝延長枝が70cm以上伸びる強樹勢の際には、1本おきに幹間伐が可能である。
- 幹間伐後の切り口の癒合も良く、樹勢は抑えられ、花芽の着生も多くなる。
- ただ、樹勢は強めに維持しておいた方が良い印象

イチゴ、ブルーベリー、ブドウ、リンゴ、ナシ、イチジク、キウイ、スグリ等、多様な果実が最新の栽培技術とスマート農業技術を活用して生産できる仕組みが構築され、企業的な視点で経営が実施されている。こうした取り組みを紹介するとともに、報告者の菊地さん自身が果樹の専門家であるこ

とから、ジョイント栽培のポイント、スマート農業技術による省力化の工夫などについて詳しく説明された。なお、新型コロナウイルスの蔓延下でも密にならない広大な敷地をもつ当観光農園では、お客様の減少は起こらず、むしろ増加したと報告され、マイクロツーリズムの拠点施設となっていることが確認できた。

以上の 4 つの話題提供を受けて、東北地域農林水産・食品ハイテク研究会 農林水産省産学連携支援コーディネーター（門間）の司会進行で質疑討論が行われた。

質疑討論では、国土交通省の鈴木さんに対しては、コロナ発生以前に東北地域でインバンドが大きく増加した理由、観光地域づくり法人（DMO）の組織化の仕方、サステナブルツーリズムの実践方法について質疑が行われた。JR の渡邊さんに対しては、多様な地域発信を行っている JR 東日本と地域の人々との連携の仕方、JR 東日本と地域の行政との連携の仕方、地域発信のための新幹線ビジネスの今後の活用方向などについて質疑が行われた。

ワタミの小出さんは急用ができたため、質疑を欠席した。仙台ターミナルビルの菊地さんに対しては、観光客に対する新たな果樹栽培技術、スマート農業技術の見せ方、受光態勢が良いジョイント栽培における果実の日焼け防止対策、凍霜害や鳥獣害への対応などの技術的な質問を中心とした質疑が行われた。

本セミナーには、東北ハイテク研究会の農業技術に関するこれまでのセミナーとは異なる個人・企業関係の方に全国各地から参加いただいた。当研究会の今後の新たな活動の展開についての可能性・方向性を考える意味でも非常に有意義であった。

なお、本セミナーに関する資料を当研究会の HP（下記 URL）に掲載していますので、ご参考にいただければ幸いです。

<http://tohoku-hightech.jp/seminar.html>